

詩人の死



[詩人の死_下载链接1](#)

著者:正津勉

出版者:東洋出版

出版时间:2015-4-2

装帧:

isbn:9784809677786

石川啄木、中原中也、金子みすゞ…

今なお、その作品が読み継がれる詩人たち。彼らはいかに生き、詩をよみ、絶えたの

か。

その作品と生き様、死の行方を綴るシリーズ、第1弾。

人は死ぬ。いつか死ぬ。しかし、どのように死に向かうのか。誰にとっても避けては通れない命題です。みずからの魂を燃やすようにして作品を生み出してきた先人たちは、どのような死に際だったのか。それはどんな心境であったのか。そんな「死」をめぐるシリーズの第一弾として掲げるのが、本書『詩人の死』です。

自死、窮死、不明死、戦死、病死……。それぞれ生きた時代も異なる夭折の詩人、17＋1名を取り上げ、その生き様と死の行方を、詩人・正津勉が綴りました。

登場するのは、明治・大正からは、北村透谷、石川啄木、山村暮鳥、宮沢賢治など、9名。Ⅱ昭和・戦前からは、小熊秀雄、金子みすゞ、中原中也など、5名。Ⅲ昭和・戦後からは、原民喜、伊東静雄、寺山修司の3名。あとがきの谷川雁を加え、途なかばにして燃えつきた彼らが、詩作に込めた想い、魂の震えに迫ります。

作者介绍:

1945年福井県生まれ。

1972年、『惨事』（国文社）でデビュー。代表的な詩集に『正津勉詩集』『死ノ歌』『遊山』（いずれも思潮社）があるほか、小説『笑いかわせみ』『小説尾形亀之助』『河童芋銭』『小説小川芋銭』、エッセイ『詩人の愛』『脱力の人』（いずれも河出書房新社）など幅広い分野で執筆を行う。近著に山をテーマにした詩集『嬉遊曲』、エッセイ『人はなぜ山を詠うのか』『行き暮れて、山。』（いずれもアーツアンドクラフツ）、『山川草木』（白山書房）、『山に遊ぶ山を想う』（茗溪堂）のほか、『忘れられた俳人河東碧梧桐』『「はみ出し者」たちへの鎮魂歌近代日本悼詞選』（いずれも平凡社新書）がある。

目录:

[詩人の死_ダウンロード1](#)

标签

日本

日本語

得齐

评论

墙头推荐的诗人的最好买的书，结果都是写别的诗人。。作为一个对胡乱揣测他人想法很抗拒的读者，意外发现，那方面不当真不在意其实还挺好看的，尤其适合不了解任何诗人和诗的文盲。。而且这些人都生得早死得早可以在青空文库找到。。

[詩人の死_下载链接1_](#)

书评

[詩人の死_下载链接1_](#)